

現場に始まり
現場に終わる
カ
現場 ⑤



ハセガワエステ
代表取締役社長
長谷川卓史氏

今回は現場で感じる新たなウエディングスタイルについてお話しします。

10数年前、ガーデン付きのゲストハウスが結婚式の新たなステージとして登場しました。

それまでは正餐スタイルでしたから、披露宴の始まる前や最後にガーデンに誘導されるスタイルに列席者は、過ごし方や楽しみ方が分からず不安を抱いていました。

「このまま披露宴が始まるのか…」
「高いご祝儀を包んできたのに」
など思いはそれぞれです。

ところがガーデン付きのスタイルが浸透するなかで、列席者の不安も解消され、1つの結婚式の形として確立したのです。

スタッフが料理をお皿のセーerbis
そしてまだごく少数ですが動き始

最先端の Couples が注目する
「ラグジュアリーなブッフェ」

めたのが、ラグジュアリーなブッフェスタイルです。ガーデンのデザートブッフェなどに誘導されることなく、新郎新婦と列席者や、列席者同士が自由気ままに会話を楽しむというものです。といつても一般宴会感覚のブッフェではありません。お料理もサービスのスタイルも洗練されている、パーティー慣れた方々が楽しむウエディングです。照明・音響などを工夫しナイトクラブ感覚のものであったり、ピン

チヨス（つま楊枝に指して気軽に食べられるもの）を料理とし、スタッフがお皿にのせてゲストにサービスしたりなど、さまざまなスタイルがあります。

最先端を走る新郎新婦に注目

ゲストハウスもそうでしたが、初めは時代の最先端を走る新郎新婦が新しい結婚式のスタイルとして着目し、実際に結婚式を挙げました。そのスタイルに憧れて他のカップルが動いてきました。

つまり今、最先端を走る新郎新婦が着目したラグジュアリーなブッフェスタイルは、近いうちに一般的なスタイルとして浸透する可能性があるということなのです。

もちろん、司会も音響、照明もより自然で高度な技術やノウハウが求められます。

まさにますます現場力が勝負どころとなっていくことでしょう。

プロフィール

(はせがわ たかし)
1963年10月16日、総合家具販売会社の3代目として千葉に生まれる。中央大学商学部卒業後、経営の道を歩み始める。30歳を越え婚礼司会者に転身。2000年起業し、現在国内最大手、年間1万組を超える企業に成長した。